



# 信太の森ニュース

No. 49

2025年10月31日

文責 田丸八郎



初めて見るショウショウトンボの群舞（惣ヶ池湿地）

2008年の夏、故人となった前代表花田茂義氏と故島崎舜二氏、当時園芸店に勤務していたT青年と筆者の4人で信太山丘陵に自生するサギソウを護ろうと「SSプロジェクト」を立上げ、その年の夏から信太山のサギソウの受粉を行い、採種した種から無菌培養により苗を作り、毎年3月に植替えを続けて育ててきました。

植替え時に余った球根の一部を自然公園予定地内の湿地で2年間移植を試みましたが日照等の問題もあり成功せず、その後惣ヶ池湿地の3ヶ所で試みました。

惣ヶ池湿地A地点、B地点では1年目は開花したものの2年目は土砂に埋まるなどして

て適地でないことが判り、3年目は湿地中程の場所で移植を試み開花しました。

この場所を3年程少しづつ切り開き移植した結果少しづつ開花が増え、昨年は15株、そして今年は30株が開花し、会員に呼び掛けて特別に「サギソウ観察会」を実施して参加したみなさんに楽しんで貰いました。

惣ヶ池湿地は一般にも開放しています。サギソウの開花を楽しみに来て貰うのはいいのですが、残念ながら湿地内に踏み込んで写真を撮る人も出ているので、湿地にダメージを与えないために一定の柵を設置するか「立入禁止」の掲示物を設置したりすることも考えなければならないと思っています。

NPO法人 信太の森FANクラブ  
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202  
電話 0725-45-7357 090-1225-9159  
E-mail

## 公園協議会の動きと活動

里山自然公園東エリアの工事が昨年度末から始まったことを前号でお知らせしました。

今年度は、東エリアのトイレ棟と昨年度末に切り開かれたアラカシ林跡地の草原エリアの整備等が行われる方向で協議が進められています。

草原エリアについては、四阿の近くに管理棟前広場と同じ広場とチガヤ、エノコログサなど低草草原、ススキ、チガヤ等の高草草原の3エリアの方向で話が進められています。

ススキ、チガヤ草原を作るには、惣ヶ池湿地に入り込んだススキ、チガヤを掘り取って移植することが必要になるでしょう。

## 里山自然公園開園一周年記念イベント開催される

信太山里山自然公園では、開園一周年記念イベントが10月19日に開催され、160名近い子ども連れ家族で賑わいました。

開園は8月ですが、昨年同様猛暑を避けて今年も10月に開催されました。

前夜の大雨で開催が危ぶまれたものの、天候は曇天でしたが暑くも無く寒くも無いイベント日和となりました。

このイベントでは、FANクラブとして昨年同様「のこぎり体験」を担当しました。

野外の大木エノキの下で吉原さん、廣石さん、尾崎さん、岩川さん、渡辺（憲）さんと筆者ほか3名の協議会メンバーで対応しました。



丸太切りに懸命に取り組むこどもたち

今年は、小さな子供でも切り易いように材質が柔らかいカクレミノと高学年の子どもでも挑戦できる木質が固いアラカシの材を使い切取った材はお土産に持帰って貰いました。

当日は、コギリ体験の他樹名板作り、自然観察会、綿摘み体験、バードコール作りなどで楽しんで貰いました。

## 湿地植物の育苗小屋を作っています

信太山丘陵の湿地植物の希少な湿地植物は、周囲の樹木の成長で日照が遮られたり他の植物の侵入により荒れてきています。

毎年湿地植物の調査を実施していますが、年々希少植物が影を潜めているばかりか、ヨシなど大型植物やネザサが侵入してきており、荒れかけています。過去には40株ほどあった希少種が今年は1株だけと絶滅の危機に瀕しています。

湿地の日照条件確保や移入種の駆除を含めた保全の方法も検討しなければなりません。種の保存を行うために育苗による増殖も検討する必要があると思います。

「SSプロジェクト」で増やしたサギソウを含め湿地の希少種（コモウセンゴケ、モウセンゴケ、ヒメヤブラン、ミズギボウシ、カキラン等）を一定の場所で保存管理、増殖ができないかと考え、里山自然公園管理棟西側に育苗小屋を作っています。

屋根の無い網囲いだけの小屋ですが、管理棟を訪れた方は水遣りをお願いします。みんなで大切に保存していきましょう。



## メダカは干ばつを耐え抜けるか

25年前、(社)大阪自然環境保全協会の水辺調査委員会が大阪府下のメダカ棲息調査(第一次～第四次)を実施しました。

筆者もその調査委員会メンバーとして第一次調査から和泉市を担当し、市内の水路や榎尾川をくまなく歩きました。

ショッピングセンターなどではヒメダカや白メダカなどが平気で売られていて交雑種も観られることからメダカの遺伝子交雑が更に進むことが懸念されていました。

そんな中、大阪自然史博物館が行うメダカの遺伝子調査にも協力して惣ヶ池湿地のメダカを検体として上げた結果ミナミメダカ(日本の固有種はキタノメダカとミナミメダカの二種)という結果がでました。

そのミナミメダカが棲息する惣ヶ池湿地には三つの池があります。その三つの池が昨年は全て干上がりました。その結果メダカが絶滅したかにみえました。

前号で雨が少ない年の教訓として「池の水が干上がりそうな場合、干上がる前に水生生物(メダカなど)を捕獲し、池の水が確保されるまで水槽などで飼って絶滅を防ぐ。」ことと記しました。

今年も年初から雨が少なかったものの、その後の雨で池の水はいつもの状態に戻りましたが、4月になっても、子ガエルが上陸する5月になっても湿地の池にメダカの姿が見えません。「惣ヶ池湿地のメダカは絶滅したのか」と事前に捕獲していなかったことが悔やまれました。

メダカ復活のために他の水系からメダカを採取し、湿地の池に入れてみては?と二、三の水路を覗に行きましたが、そこにメダカがいたとしても「ミナミメダカ」の補償はなく、他からの移入を思い留まりました。

5月に入り惣ヶ池湿地の大きな池の水面にピチピチと何かがいるような動きがあり数日

観察を続けましたがメダカだとは確認できませんでした。

6月4日湿地の奥の池の木道沿いで波紋があり、観察してみると体長10～20mm程のメダカ多数を確認できました。



復活したメダカ

メダカが復活したのです。干上がって絶滅したはずなのに何故復活できたのか。

池の底には微細な土が沈殿して堆積しています。干上がったその泥の中では、<sup>えら</sup>鰓呼吸をするメダカが埋もれた状態で生存できるとは思えません。

6月に確認できたメダカが大きくなった頃からまた雨が降らず惣ヶ池湿地の池は再び干上がりました。

前号に記した教訓から池が干上がる寸前に網を入れて約10匹ばかりのメダカを捕獲して、水槽で飼育することにしました。

昨年絶滅したはずのメダカがなぜ復活したのか。そのことが頭を離れません。今回のメダカ捕獲時にメダカのお腹が異常に白いのに気づきました。そのことから泥中に埋まった成体は死んでもそのお腹の中の卵は泥中に一定の水分があれば生き残れるのではないだろうか。

乾燥した土の中では無理でも一定の水分を含んだ土(泥)の中であれば卵は渇水期をのりこえられるのではないか。メダカの産卵は水ぬるむ春から始まります。一定の水分が確保され春になれば、その卵が孵化する仕組みになっているのではないだろうか。

過去に「水辺調査委員会」で活動していた

頃、砂漠で“メダカが復活した”という話を聞いたことがあります。それは砂漠の中のオアシスでの話なのでしょう。

里山自然公園の館長の平岩さんに調べて貰ったところメダカ再生に関する論文は既に出ていて、一定条件下で復活できるとのことでした。

一定条件の詳細は分かりませんが、惣ヶ池湿地の大きな池は今年既に2回干上がりました。1回目の渇水直前に前述のとおり10匹ばかりを捕獲していますが、その後纏まった雨が降らず再度干上がりました。

秋に雨が降り、池の水が十分満たされたとしても、秋以降は水温が下がるため泥中に埋まったメダカの卵は来春まで孵化することはないでしょう。

来春、池の水面でうごめくメダカの波紋を観察できるかどうか見守っていきたいものです。惣ヶ池湿地の種の保存のために今確保している10匹ばかりのメダカを保存しておくことも必要ではないかと思います。

## 信太山丘陵の昆虫の話

信太山丘陵の虫の話を3題お届けしましょう。信太の森ふるさと館の資料に「文献による信太丘陵の昆虫」というデータがあります。それを見るとトンボは38種が確認されており、信太山丘陵が如何に生き物の宝庫であるかが判ります。

さて、そのデータのうち筆者が惣ヶ池湿地で確認したものだけを見るとハラビロトンボやナニワトンボ、ヒメアカネ、フタスジサナエなど27種を確認しています。

ところが、今年はこのデータにない珍しいトンボが確認できました。赤とんぼの一種のようでナニワトンボ位の大きさ。一見ウスバキトンボかと見間違えるような色をしていてお尻をピンと立てて止まるのが特徴です。そのトンボはネキトンボではないかと思うのですが。知っている方があれば教えてください。

## 虫の話その②

先の開園一周年記念イベントでの「ノコギリ体験」は管理棟のすぐ近くのエノキの大木の下で行いました。そのエノキの幹に、幹の色と同じ色で長さ5cm程、巾1,2cm程、厚さ3mm程の膨らみがありました。余程気を付けて見なければ分かりません。それは、シンジュキノカワガという蛾の繭でした。早やとちりして「紀の川」に関係があるのかと思ったのですが、繭の色が樹皮(木の皮)に似ていることでその名がついているそうです。

その近くのアラカシの幹にもアラカシの幹の色に似た繭がいくつもあり、その後成虫、幼虫、さなぎも観察することができました。



成虫とまゆ（赤丸内）  
幼虫とまゆ内のさなぎ

## 虫の話その③

惣ヶ池湿地の北入口から入って長い木道があります。その木道入口付近には保全活動時に刈り取った草の捨て場にしています。8月末にその側を通るとスズメバチが一匹飛び出してきました。木道から1m程の場所です。気を付けて様子を観ることにし、その2日後に山口(会員)さんと二人でその場を通り、木道の中ほどから振り返り「様子を観るように」という話をしていると二匹のスズメバチがいきなり一直線に飛び出し二方向に飛んでいきました。その内の一匹は私たちの方向に向かってくるので「危ない」と身構えたものの、私たちを逸れて飛んで行きました。

その蜂の巣は山口さん、俵谷さんの働き掛けでその翌日に蜂駆除業者により駆除されました。



駆除されたオオスズメバチの巣

### 編集後記：

50号まで頑張ろうと本号編集にとりかかりましたが、話題が少なく四苦八苦。なんとかできあがりました。みなさんの投稿を